

第 15 回白衣式が開催されました

千葉大学医学部では令和 6 年 11 月 29 日（金）、ゐのはな記念講堂にて第 15 回白衣式が開催されました。

この白衣式は、医学生が入学して 4 年間にわたり積み重ねてきた学びを経て、これから病院での臨床実習で臨床実習生（医学）として患者さんと直に接するにあたり、医療者の一員としての自覚を新たにするとともに、本格的なトレーニング（臨床実習）を開始することを祝福するための大切な式典です。今回は共用試験（CBT、臨床実習前 OSCE）を無事に突破した学生総勢 120 名が参加しました。

式典では、三木隆司医学部長、花澤豊行医学部附属病院副院長、伊藤彰一学部学務委員長、吉原俊雄ゐのはな同窓会長、当間雄之医学部後援会理事、青柳信子千葉白菊会会長から学生へのメッセージが送られた後、白衣授与が行われました。一人ずつ氏名を呼ばれ、ステージ上で自らの名前と千葉大学医学部のロゴマークが刺繍された白衣を着せ掛けられた学生らは、白衣の重みを感じながら気持ち新たに、今までお世話になった方々に一礼しました。

続いて 4 年生を代表するプロジェクトリーダーから、自分たちが目指す医師像を表現した『誓いの言葉』が読み上げられました。4 年次学年代表の神谷直樹さん、鈴木喬晶さん、中本真緒さんは、「白衣を纏う喜びを胸に、常により高きものを目指し、臨床実習、そしてその先の未来へと歩み続けます」という『感謝の言葉』を述べました。これまで学生たちを育ててくれた方々を代表し、千葉白菊会の青柳会長、医学部教員代表として伊藤学部学務委員長に花束贈呈が行われ、白衣式は幕を閉じました。

会場の外では、医学部生と保護者の方々が集まり、記念撮影を行っていました。学生からは「いままで先生方や、献体により多くの学びを与えてくださった方々、模擬患者さんから教えていただいたことを現場で実践できることに喜びを感じると共に、強い使命感を覚えました」という声や、「臨床実習の開始を前に、今まで支えてきてくれた家族に、お礼とこれからの意気込みを伝えました」といったエピソードが語られました。

学生たちは、コロナ禍で制約を受けながらの学生生活となりましたが、医師というひとつの目標に向かって一人一人が努力を積み重ね、この場に立つことができました。その裏には、教職員やご家族、献体により自らを導いてくれた方々やその理念にご賛同いただいたご遺族の方々など、多くの方々のご協力の上に成り立っています。

今回、白衣を受け取った 120 名の学生にとって、実りのある臨床実習となるよう、医学部教職員一同、応援していきたいと思っております。



学生へのメッセージを述べる三木医学部長



白衣授与の様子



誓いの言葉を述べる学生